

内閣府が、「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和 7 年人々のつながりに関する基礎調査）」の結果を公開しました（2026 年 4 月）

内閣府「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（令和 7 年人々のつながりに関する基礎調査）」

https://www.cao.go.jp/kodoku_koritsu/torikumi/zenkokuchousa/r7.html

結果のポイント

https://www.cao.go.jp/kodoku_koritsu/torikumi/zenkokuchousa/r7/pdf/tyosakekka_point.pdf

調査報告書

https://www.cao.go.jp/kodoku_koritsu/torikumi/zenkokuchousa/r7/pdf/tyosakekka_gaiyo.pdf

<概要>

この調査は、我が国における孤独・孤立の実態を把握し、各府省における関連行政諸施策の基礎資料を得ることを目的として実施したものです。全国の満 16 歳以上の 20000 人を対象に、直接質問（あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか）と、間接質問（「UCLA 孤独感尺度」の日本語短縮版）により、令和 7 年 12 月から令和 8 年 1 月 31 日の間に実施されました（有効回答者数 11,873 人）。

<結果のポイント>

- ・ 令和 6 年との比較で、直接質問では「時々ある」の割合が縮小し、「決してない」の割合が拡大、間接質問では、「4～6 点（ほとんどない）」の割合が拡大している。
- ・ 直接質問、間接質問、ともに 30 歳代から 50 歳代で孤独を感じるものが「しばしばある・常にある」「10～12 点（常にある）」の割合が高い
- ・ これを性年齢階級別にみると、男性では 50 歳代で、女性では 30～40 歳代で高くなっている

その他、配偶者、同居人の有無別、仕事の有無、世帯収入別、共食の頻度別など、様々な視点で孤独・孤立の実態を把握しています。